

まちかど

アルバム



佐治に出前かっこ館

佐治町総合福祉センター

2月24日(木)、「とっとり賀露かっこ館」で飼育されている海の生き物が、佐治町までやってきました。会場となった佐治町総合福祉センターのロビーは、ミニかっこ館に様変わり。保育園児や小学生が来館し、カニの甲羅投げをしたり、サメを触ってサメ肌を体感したりと大にぎわいでした。また、この日はデイサービスを利用している高齢者も訪問。小学生に「これはなんちゅうもんだ?」と聞く一幕もあり、世代を越えた交流となりました。

夢いっばいのオペレッタ公演

用瀬地区保健センター

3月1日(火)、用瀬地区保健センターで、鳥取短期大学幼児教育保育学科の学生28人がオペレッタ(軽歌劇)を公演しました。地元の保育園児と保護者ら約100人が観劇する中、色鮮やかな衣装を着た学生たちが「アラジンと魔法のランプ」を熱演。園児は、主人公アラジンと悪者が戦う場面になると懸命にアラジンを応援するなど、間近で見るオペレッタに大興奮の様子でした。



おふくろの味が一堂に

鹿野往来交流館「^{ドリーム}童里夢」

2月27日(日)、鹿野往来交流館「童里夢」で「おふくろの味フェスタ in しかの」が開催されました。大勢の来場者でにぎわった会場には、地元自慢の料理39品が勢ぞろい。みなさんが気になった料理を少しずつ試食した後、感想をアンケート用紙に記入していました。この日は、内閣府男女共同参画社会づくりチャレンジ賞の受賞歴を持つ新関さとみさんのシンポジウムも開催され、参加者は家庭の漬物作りから始まった販路拡大の話に熱心に聞いていました。

アスリートが健康の秘訣を伝授

気高地区保健センター

3月9日(水)、気高地区保健センター「ゆうゆう健康館けたか」で、健康維持のための運動方法を学ぶ「チャレンジ教室 in ゆうゆう健康館けたか」が開催されました。講師は、ボブスレー日本代表としてオリンピック出場経験を持つコカ・コーラウエストスポーツパークの体育指導員・小林竜一さんら3人のアスリート。水中ウォーキングやマシントレーニングの効果的な運動方法から、その効用までを教わった参加者たちは「健康維持や筋力づくりに活用したい」と話していました。





白兎に「ゆるキャラ」誕生

道の駅「神話の里白うさぎ」

2月13日(日)、道の駅「神話の里白うさぎ」で新しいマスコットキャラクター「因幡のぴよん兔」と「しろぴよん」のお披露目式が行われました。式典では、ぴよん兔の名付け親、石原勇二さんが「末長くかわいがってください」とあいさつした後、来場者全員に白兎の新名物「うさぎ焼き」が配られました。この日はバレンタインデー前日ということで、あんこではなくチョコレート入り。受け取ったみなさんは早速、おいしそうにほおばっていました。

畳の上で簡単ストレッチ

河原町「湯谷荘」

2月26日(土)、河原町湯谷の温泉施設「湯谷荘」で「けんこう教室」が開催されました。これは、河原人権福祉センターが毎日の健康づくりに役立ててもらおうと企画したもので、地元住民20人が参加。講師の五百川典子さんに教わりながら、手足を上げたり、隣同士で肩をたたいたりする簡単なストレッチを学びました。参加者の中には「ぜひ、家でも続けたい」と言う人もいたなど、大好評でした。



できる男は料理も上手!?

鳥取市男女共同参画センター

2月12日(土)、鳥取市男女共同参画センター(西町二丁目・福祉文化会館内)の調理室で「できる!男の料理教室」が開催されました。これは、男性の家事参画を促進し、家庭における男女共同参画意識を高めるため定期的に開催されているものです。今回は「まかせなさい!!父さん自慢の手作り餃子」をテーマに、78歳の男性を含む16人が参加。料理研究家の宮下高子さんに教わりながら、水餃子や焼き餃子など、さまざまな餃子を作って料理の腕を磨きました。



米粉の普及を後押し

とりぎん文化会館

3月8日(火)、米粉セミナーがとりぎん文化会館で開催されました。これは、鳥取県米粉食品普及推進協議会が、米粉の魅力をPRし、日ごろから家庭で使ってもらおうと企画したものです。



会場では、米粉で作ったパンやカレー粉などが販売されたほか、米粉うどんの手打ち体験があり、20人の老若男女が参加。さぬきうどん研究会世話役・田井昇さんの熱心な指導を受けながら、手でこねたり足で踏んだりして米粉から生のめんを作りました。

土器作りは窯造りから

青谷小学校



3月8日(火)、総合学習の一環で青谷上寺地遺跡について学んでいる青谷小学校の5年生が、土器の野焼きを体験しました。最初の窯造りでは、寒さで手が自由に動かないこともあり、稲わらを円錐状に組み上げる作業に四苦八苦。ただ、この作業が野焼きの

成功に特に大事な工程ということで、みんなが頑張りました。完成した窯に火を入れ、一昼夜たった翌日に土器を取り出すと、児童たちからは大きな歓声が上がりました。